江差町教育大綱

「町全体が子ども一人ひとりとしっかりと向き合い、子どもたちが自分らしく生きる力を育む町」を目指して、教育の振興に関する施策を総合的に推進するため、教育の大綱をここに定めます。

教育の方針

「子どもたちを誰ひとり取り残さず、町民の誰もが生涯を通じて学ぶ心を育む教育行政を推進する」

取組の柱

○　子ども一人ひとりに、目が行き届き、温かい教育を提供する町

- 町総がかりで、江差の子ども一人ひとりを育てます。
- 学校、家庭、地域、行政が強く連携し、それぞれの役割を自覚し子どもと向き合います。

○　多様性の社会を尊重する力を育む町

- あらゆる他者との違いを認め、受入れ、共生する意識を醸成します。
- 自分たちの「地域」を知り、自分たちとは違う「世界」を理解する子どもを育てます。

○　自己肯定感を高め、自己決定のできる力を育む町

- 自分自身の存在を肯定的にとらえられる子どもを育てます。
- 自分の生き方を自分の考えで選び、自分の生き方に満足できる子どもを育てます。
- 自由と責任への正しい自覚を醸成します。
- 自己表現力と聞く力を育てます。

○　生涯を通じて学び続けられる心身を育む町

- 生涯にわたって学ぶことができる環境を整えます。
- 年代や体力に応じた様々な運動を通じて健康増進を図ります。

○　ふるさとの魅力を大切にする人を育む町

- 地域の歴史や文化に触れあい、大切にする心を育てます。
- ふるさとの魅力を理解し、これからも大事にしていく心を育てます。

令和８年３月

江差町長　照井誉之介

江差町教育大綱の策定に当たって

この大綱は、未来を担う子どもたちを健やかでたくましく育みたいという思いで、教育の振興に関する施策を総合的に推進するための方針として策定したものです。

大綱には、「子どもたちを誰ひとり取り残さず、町民の誰もが生涯を通じて学ぶ心を育む教育行政を推進する」という「教育の方針」を掲げました。

「誰ひとり取り残さない」という言葉は、２０１５年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」（SDGｓ）の中から引用しました。少子化が進む中、江差町という自治体の規模だからこそ、子ども一人ひとりとしっかりと向き合い、一人ひとりの個性や特性を尊重した教育行政を推進するという江差町としての覚悟を示しました。

この「教育の方針」に沿って、どのような取組を推進していくのかを「取組の柱」として表現しました。

１つ目は、少子化が進む中、「町民がそれぞれの立場で、自分事として、子どもたちをしっかりと育てていくこと」や「ともに手を携え、同じ方向に向かって取り組むこと」が不可欠であることを示しました。

２つ目は、「多様性の尊重」がとても重要だということを示しました。それは、自分の立場や価値観とは違う他者の存在を尊重するということです。それにはまず、自分自身を正しく理解できていなければなりません。そのため、「自己理解と他者理解、地域を知り世界を知る」としました。

３つ目は、「自己満足の高い生き方ができる力」の育成です。「自分が満足できる人生となるために、どのような選択をすべきか」ということをしっかりと考えられるようになることが大事です。そのための視点として、基礎学力の育成を基盤にしたうえで、「自分自身で生き方を決める力や自分の判断に責任を持つ態度の育成」としました。また、社会の一員として、他者と適切にかかわるための力の重要性も明記しました。

４つ目は、「生涯を通じて学ぶ心身の育み」についてです。人生 100 年時代を迎えるなかで、年代を問わずに様々な学びと運動を通じた生涯学習の重要性を示しました。

５つ目は、「ふるさとの魅力の大切さ」についてです。先人から受け継ぐ地域の宝である「歴史・文化・自然」の魅力を理解し、これからも大事にしていこうとすることの重要性を示しました。

子どもたちが夢や希望を持って成長できる社会であればこそ、まちづくりの推進や地域の活性化の道が開けると確信しています。この大綱の下、教育委員会とより一層連携しながら、教育行政を推進していきます。